廣福寺だより

2020年6月

田植え後の水田と弥彦山

いま寺の裏手にまわると、弥彦山から国上山で、新緑が美しく連なっています。山々が刻々と緑の色を変え、田植えが終わった水田が鏡のように山々を映し出す、とてもいい季節です。それなのに新型コロナウイルスのニュースのせいか、今年はやはり心が落ち着かず、この季節をゆったりと味わえません。

昨日必要があって寺の過去帳をめくっていると驚くことがありました。今年ちょうど百回忌に当たるのが大正十年です。私の父、先代住職の恵信が生まれる五年前です。この年に過去帳に記載されているのは二十九名の方たちですが、そのうち十五名が乳幼児でした。何かの病気が流行したのでしょうか。この年亡くなった方の平均の年齢を計算してみると、何と二十四．八歳でした。

長生きが当たり前になった日本の超高齢社会で生きていると「いのちがあって当たり前」という気分になってしまいます。

しかし私たちの先祖はどうであったのでしょうか。少しも当たり前ではないいのち、日々有り難いいのちとして、お念仏の中で一日一日を深く味わっていたのではないでしょうか。

梵鐘講 本山差向布教

三月九日（月）は梵鐘講・本山差向布教でしたが、今年は新型コロナウイルス感染症拡大により、広福寺寺族と心光寺のみで勤行、法話の聴聞をさせていただきました。

ご布教は大阪・正念寺住職、長田譲師がお越しくださいました。以下は要旨です。

われいま帰するところなくして、孤独にして同伴なし

『往生要集』

源信和尚は『往生要集』の中で、地獄とは帰るところが無くて孤独であり、寄り添ってくれる人もいないところだ説明しておられます。

あるご門徒さんで、早くに夫を亡くした方がいます。五十回忌を前にして、子供たちが二世帯住宅に建て替え、一緒に住むようになりました。五十回忌は孫、ひ孫に囲まれてにぎやかにおつとめしました。法話も終わりお茶を飲みながら「今日はにぎやかでいい法要でしたな」と聞いたらあまりいい顔をされていない。翌月のお参りの際に話を聞いてみたら、同居を始めて最初の頃はよかったが、だんだんと自分だけが取り残されているような気がしてきて寂しいとおっしゃるのです。食事も孫の食べたいもの中心であったり、生活時間も自分より若い世帯に合わせてしまう。孫とテレビを見ていても面白さを共有できない。一緒に暮らしていながらも、孤独を感じるというのです。

学生時代の先生が書いたエッセイの話です。入院している八十歳を過ぎた母を見舞ったとき、いいことをしているつもりで「何か食べたいものはないか」「どこか行きたいところはないか」と聞いたところ、母から返ってきたのは「やさしいことばが欲しい」とのことでした。それまでの自分のことばは「リハビリしろ」だの「医者の言うことをよく聞け」だの「薬を飲め」だのと、母を追い詰めるようなものでしかなかったと気づき、生き様を恥じたそうです。孤独は人里離れた山の中にあるのではなく、人が住んでいる所にあるのです。

帰るところと聞くと、皆さんは家を思い浮かべるのではないでしょうか。人が帰るのは家ですが、命が帰っていく方向は西です。そこに阿弥陀様の西方極楽浄土があります。家と同じで帰っていくところがあるから安心できる。安心してこの世を歩んでいけるのです。

親鸞聖人は「正信偈」の始まり「帰命」を人間の側から読んだときと仏様の側から読んだときで読み換えをされています。人間側からだと「命(めい)に帰す」となり、仰せに従いますということ。仏様側からだと「帰せよ(めい)」となり、命のふるさとに帰れとの命じてくださる仏様ということです。帰るところが無くて孤独なのが地獄であるのに対して、帰れと命じてくださって、寄り添ってくださる仏様がいてくださる。そこにわたしたちの救いの世界が開かれていくのです。死んだらお浄土といういいところに行くのではなく、生きているうちにそうした教えに出遇う中で安心して命を終えていけるところがあるのだと自覚できるようになる。そしてこの命をしっかり歩んでいけるようになるのです。念仏の教えとはそれが実現できる教えであり、私たちのご先祖から受け継いできた教えであります。それを今度は私たちが後世にバトンタッチしていく番だと受け止めながらお念仏の日暮らしを続けていっていただきたいと思います。

大阪・正念寺　長田譲師
広福寺住職も、正念寺様で今年の2月初めに法話をさせて頂きました。

2019年度　広福寺勧金決算書

【収入の部】　単位（円）

科　目	決算額
勧　金	3,491,000
雑　収　入	74,234
繰　越　金	50,528
計	3,615,762

※昨年はおとき用調理室への調理台設営、
本堂照明器具のLED化をさせていただきました。

【支出の部】

科　目	金　額	内　　訳
1.寺務経常費	3,489,010	
(1)負担金等	821,410	本山護持金　教区費　ともしび代 光寿堂維持管理費　本山御仏供米料
(2)事務通信費	238,912	コピー機リース代　印刷費　郵送費　用紙代
(3)会議費	42,120	世話方総代会議
(4)教化費	625,052	本山御使僧様法礼　報恩講・女性講法礼　聞法会補助 広大会補助　カレンダー代　広福寺だより　ロウソク・焼香炭等
(5)営繕管理費	1,595,416	火災共済　消防設備保守点検　電気代　灯油代　調理室調理台 庭木剪定・冬囲い・掃除等　ロウソク　セコム　本堂LED照明工事
(6)門徒交際費	166,100	新門徒御本尊贈呈
2.積立金	0	
計	3,489,010	

総収入−総支出=126,752（次年度へ繰り越し）

2020年度　広福寺勧金予算書

単位（円）

【収入の部】

科　目	予算額
勧　金	3,400,000
雑　収　入	1,000
繰　越　金	126,752
計	3,527,752

【支出の部】

科　目	予算額
寺務経常費	3,200,000
積　立　金	200,000
予　備　費	127,752
計	3,527,752

世話方交代のお知らせ

長年に渡り広福寺世話方を務めていただきました麓二区・平岡清夫氏（清助）に代わりまして、今年の二月より平岡悟氏（津右ェ門）に後任をお願いしております。

平岡悟氏

三月の広大会はコロナウイルスの影響で中止になりましたが、後日六年生のみで修了式を行いました。広大会が始まったときから来てくれた児童も多く、子供たちの成長と月日の経つ早さに驚かされました。

中　止

昨今のコロナウイルス感染症の影響を鑑み、感染拡大防止のため今年度の下記の行事を中止とさせていただきます。

記

5月27日(水)　勝友会布教大会

6月7日（日）　永代経法要
（※寺族のみで行います）

6月23日(火)　法中講（報謝講）

また、8月1日・2日の盆参法要、ならびに「広福寺子ども会広大会」「リラックスヨガ」の再開に関しましては、状況を見て改めてご案内させていただきます。

お知らせ

◎一万二千円の勧金のお願い

一戸あたり一万二千円の勧金をお願いしております。本山・新潟教区の負担金、寺の教学、寺務、管理営繕費となります。

◎二千円の墓地管理費

広福寺墓地にお墓がある方。勧金と同時に納入いただける方はよろしくお願いいたします。

◎本山特別護持金のお願い

昨年のお便りにてご案内の通り、本山佛光寺では二〇二三年度に「慶讃法会」を勤修いたします。つきましては今年度（二〇二〇）と来年度（二〇二一）の二か年に渡り、三千円ずつ、計六千円の納入をお願いいたします。すでに納めていただいた方には改めてご協力に感謝申し上げます。

発行者　広福寺　〒959-0318　新潟県西蒲原郡弥彦村麓6590　☎0256-94-2437